

令和 3 年度 (2021) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：乗鞍岳におけるミューオン強度の精密観測 英文：Space weather observation using muon hodoscope at Mt. Norikura	
研究代表者 加藤 千尋(信州大学) 参加研究者 宗像 一起(信州大学) 小山 守一(信州大学) 浅野 駿太(信州大学) 青木 利文(東京大学)	
研究成果概要 <p>2020年12月から2021年3月まで冬季気象状況により観測は停止していた。本年度は、コロナ禍のため乗鞍観測所に上山できず、はからずも通期リモート観測を検証する機会となった。期間中2度観測が停止したが、コマンド送信による再起動によって観測を再開することができた。停止期間前後のデータから回路系の接触不良が原因の可能性が高いものと考えている。以降、11月下旬に天候状況によって冬季停止するまで観測を継続することができた。その間のデータ転送には問題なく、データは安定して信州大学のサーバーに転送されている。</p> <p>他方、南極昭和基地での宇宙線連続観測は順調に継続しており、他のミューオン観測所と合わせて観測データの公開も進んでいる。太陽活動も新たな周期に入り、11月には宇宙天気現象も観測されている。</p> <p>本年度の予算は乗鞍上山の旅費であったため、コロナ禍により全額繰越となった。</p>	
整理番号	D02